

あした、 ぼくは、 にんげんになる



2014年度「新聞広告 クリエイティブコンテスト」 結果発表

日本新聞協会広告委員会は毎年、「新聞広告クリエイティブコンテスト」を実施しています。今年度のテーマは「食」。全国から1254作品の応募がありました。クリエーターの副田高行氏、一倉宏氏、児島令子氏、佐野研二郎氏、照井昌博氏、服部一成氏と広告委員会正副委員長による厳正な審査を経て、入賞作品を決定しました。作品タイトルと入賞者は次のとおりです（敬称略。かつこ内は制作代表者の所属）。

○最優秀賞「命の交換」代表＝石井啓之（日本経済広告社）、P.I.C.＝石井啓之、A.D.＝西戸朱実、P.h.＝佐野伸広○優秀賞「食べ物で好きになった国がある」代表＝志賀章人（情報堂プロダクツ）、C.D.＝志賀章人、慶本俊輔、A.D.＝慶本俊輔、C.＝志賀章人○優秀賞「動物園鑑」代表＝山崎博司（TBWA\HAKUHODO）、C.D.＝山崎博司、小畑茜、A.D.D.＝小畑茜、C.＝山崎博司、I.＝山下基揮○コピー賞「苦手な人とこそ、ご飯を食べよう」代表＝宮崎悠（フリーランス）、C.D.＝宮崎悠、秋葉隆由（A.D.D.＝宮崎悠、C.＝秋葉隆由○デザイン賞「おにぎり」代表＝細目永（HAKUHODO THE DAY）、A.D.C.＝細目永、P.h.＝細瀬哲広○学生賞「くま介の絵日記」井出名譽子（岡学園トータルデザインアカデミー）。※略号はC.D.＝クリエイティブディレクション、A.D.＝アートディレクション、C.＝コピー、D.＝デザイン、P.h.＝フォト、I.＝イラスト、P.I.＝プランニング

（講評）
●副田高行 審査委員長 今年レベルが高い作品が多かったですね。その分、飛び抜けて秀でたものもなかった気がします。このコンテストでは、問題提起の力強さを重視したい。作品の完成度で選んでいいのだろうか――という思いがありました。最優秀賞の「命の交換」は完成度が高く素晴らしい作品ですが、完成されている分だけ、物足りなさも感じます。昨年の最優秀賞「めだたし、めだたし」のような話題作が現れることを期待します。

●一倉宏 審査委員 最優秀賞は「人間の体は食べたまのでつくれる」という事実を逆発想のコピーで伝えており、ビジュアルを含め広告表現としての総合点が高い作品です。優秀賞の「動物園鑑」は、かわい顔をしながら、社会的に鋭い問いかけを発しているところがうまいですね。学生賞の「くま介の絵日記」は4コマ漫画の仕立てが楽しい。おにぎりや「グッドデザインだ」と思う」と表現した作品がデザイン賞に選ばれたのは、決して「安直」ではなく、達人のアートディレクターたちが強く推した結果です。

●児島令子 審査委員 食品偽装などのネガティブなものばかりが来るのではと心配しましたが、多彩な作品が集まりはつとしました。最優秀賞は、食べられる命の側からのアプローチが素晴らしい。卵がヒヨコになるのではなく、食べられて人間になる、という転換が広告としてチャミングでした。コピー賞の「苦手な人とこそ、ご飯を食べよう」は、ポジティブで面白い提言ですね。学生部門は温かい作品が多く印象的でした。その気持ちを大切に技術を磨いてほしいです。

●佐野研二郎 審査委員 最優秀賞は、絵本のような優しいトーンが素晴らしい。写真、デザイン、コピーの総合点で他の作品を上回りました。優秀賞の2作品は、いずれも、新聞広告として読み手に考えさせる内容。デザインもシャープです。学生賞の「くま介の絵日記」も深いメッセージが込められており、秀逸です。食にまつわるニュースがありますが、温かみを感じる作品が多かったですね。

●照井昌博 審査委員 最優秀賞は、人間から見て都合のいい言い方に思えたのですが、それがかえって「命を食べることを都合よく正当化する人間の業さ」をも感じさせて深い気がします。優秀賞の「食べ物で好きになった国がある」は、最後のコピーに賛否両論あるかもしれませんが、読者の手を止める力があります。もう一つの優秀賞「動物園鑑」は、視点に発見がある。国・民族・文化の違いに寛容なまなざしを持つきっかけにもなる作品です。

●服部一成 審査委員 最優秀賞作品には、食品として生まれてきた卵が自身の運命を受け入れようとする切なさがあつて、その文学的な視点がユニークでした。薄いピンク色の容器を選んだアートディレクションが効いています。優秀賞の「食べ物で好きになった国がある」は、食文化による国際交流の話と政治による国際関係の話とを並べて扱っていて、新聞紙面に合った発想だと思います。*

入賞作品は、新聞広告総合ウェブサイトを「新聞広告アイデアパーク」<http://www.pesae.co.jp/adarc/>でご覧いただけます。話題の広告事例や新聞関連データも満載です。

●上の作品…最優秀賞「命の交換」

一般 社団法人 日本新聞協会
〒100-8543 東京都千代田区内幸町2-12-11
日本プレスセンタービル 03-3359-1144 07